

リンゴの主要病害における耐性菌対策

研究のねらい

黒星病や斑点落葉病などの主要病害について耐性菌の出現状況をモニタリングし、適切な防除対策を図る。

研究の成果

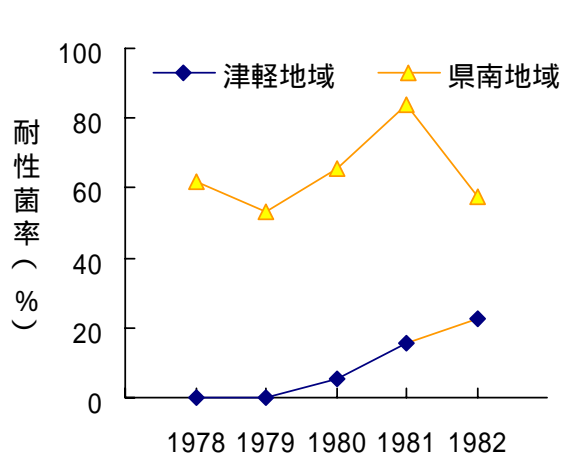
1978年にベンズイミダゾール系の薬剤に対して耐性を示すリンゴ黒星病が出現し、1982年には県内全域に分布していることが明らかになったことから、直ちにチオファネートメチル及びベノミルの使用を中止した。

1974年にポリオキシシン、1987年にキャプタンのそれぞれに耐性を示す斑点落葉病菌が出現した。ポリオキシシンでは年間の使用回数を年1回と制限し、キャプタンでは単剤での使用を中止した。

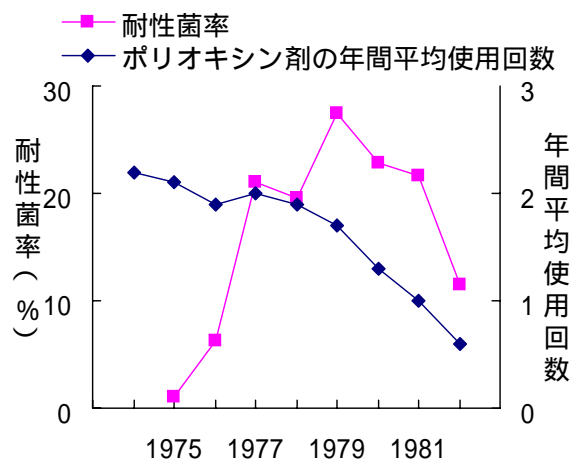
1980年、1997年の調査で、チオファネートメチルに耐性を示すリンゴ腐らん病菌の存在が認められたが、その割合は極めて低く、特に問題とならなかった。

1995年にはフェナリモルに対してやや感受性の低いリンゴ黒星病菌の分布が認められたが、特に問題になるとは考えられなかった。

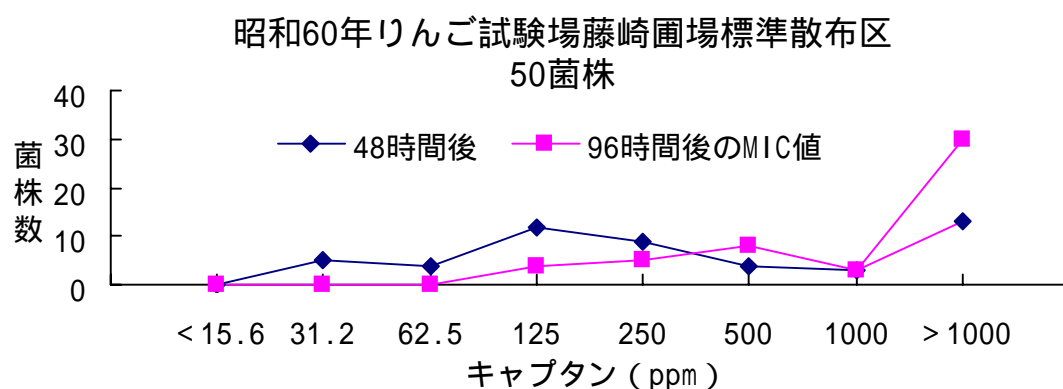
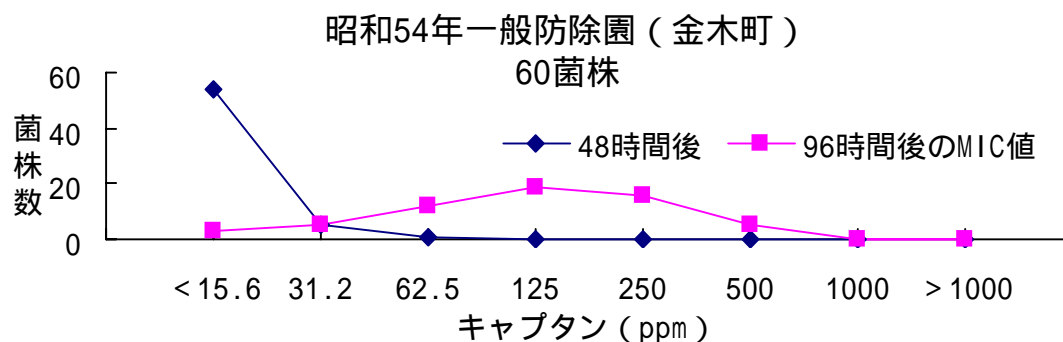
主要な試験データ



第1図 ベノミル剤に対する黒星病耐性菌の出現状況



第2図 ポリオキシシン剤に対する斑点落葉病耐性菌の発生経過



第3図 昭和54年と60年のキャプタン剤に対する *Alternaria* spp.の薬剤感受性

発表資料

1. 長内昌彦ら (1987). キャプタン剤に対するリンゴ斑点落葉病菌の感受性低下. 北日本病虫研報38: 72 - 73.
2. 瀬川一衛ら (1980). 青森県におけるリンゴ黒星病菌の benomyl 耐性発現とその簡易検定. 日植病報 46: 77 (講要).
3. 鈴木宣建ら (1985). リンゴ斑点落葉病菌のポリオキシシン耐性. 青森りんご試報 22: 65 - 107.
4. 雪田金助 (1998). 青森県におけるリンゴ腐らん病菌のチオファネートメチルに対する感受性. 北日本病虫研報 49: 205 (講要).